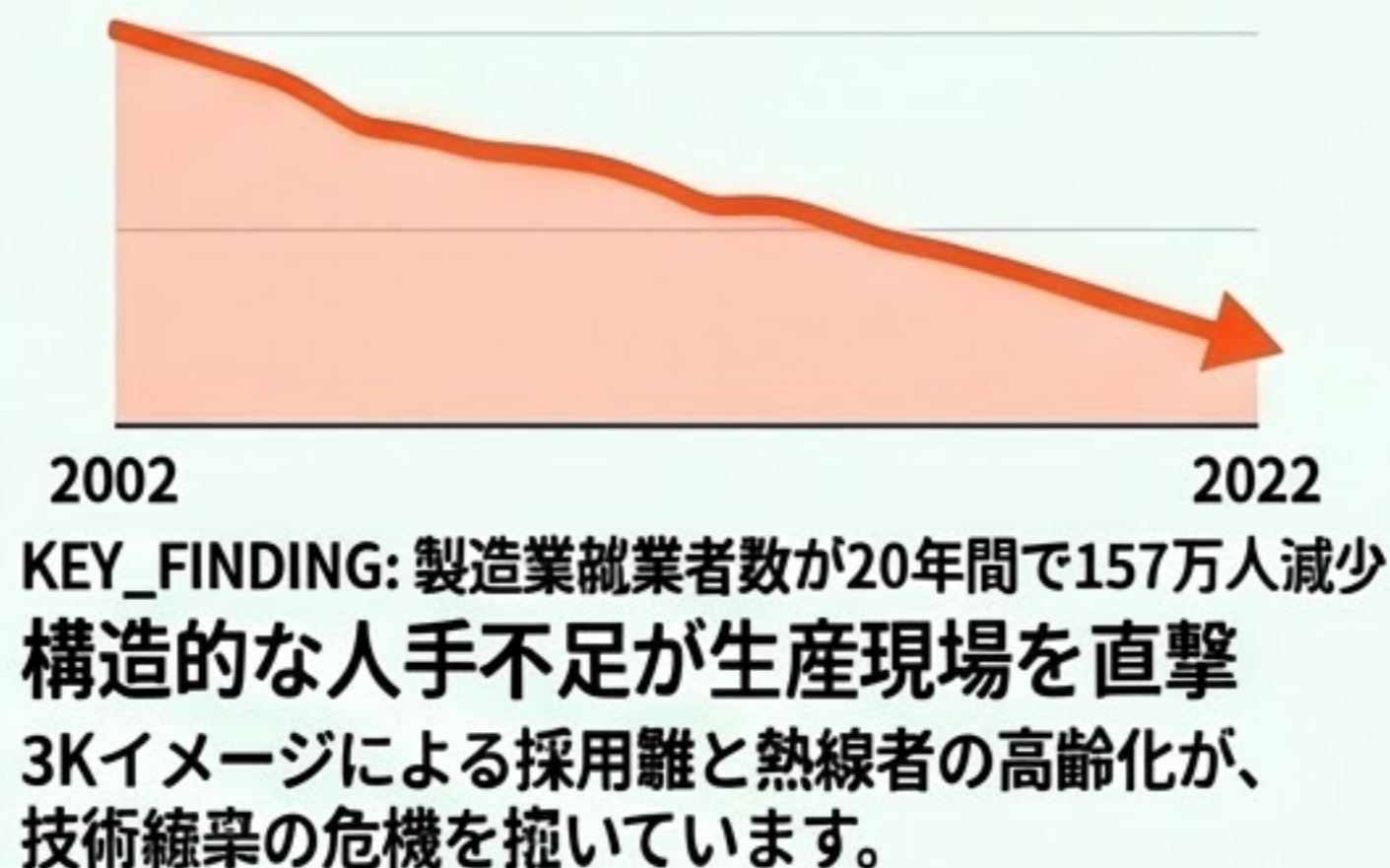


# ついに「ロボットが部下」の時代へ：中小企業を救う「時給雇いロボ」の台頭

## 【背景】日本の中小企業が直面する労働力不足の危機



有効求人倍率  
製造業の求人難は全産業平均を圧倒  
「生産工程の覇業」の求人倍率は1.67倍に達し、全産業平均の1.25倍を大きく上回る深刻な「売り手市場」が定着化しています。

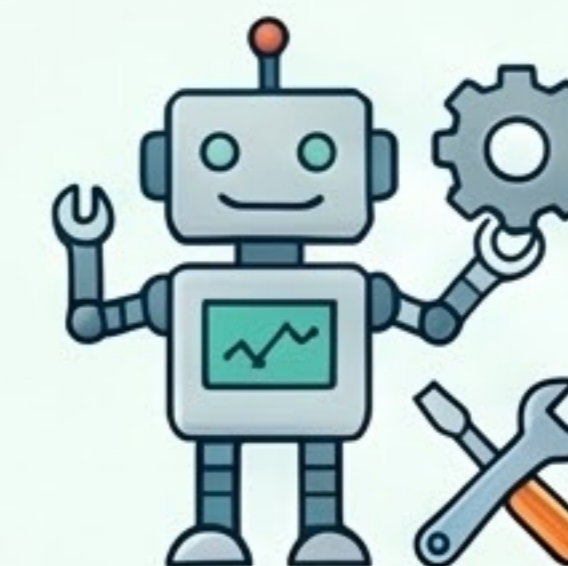


## 【解決策2】 RaaS：ロボットを「時給」で雇う新モデル



### COMPARISON: 「時給雇いロボ」が初期投資の壁を壊す

初期投資 (CAPEX) を抑え、月額料金などの運用費 (OPEX) として始稼できるため、キャッシュフローを重視する中小企業に最適です。

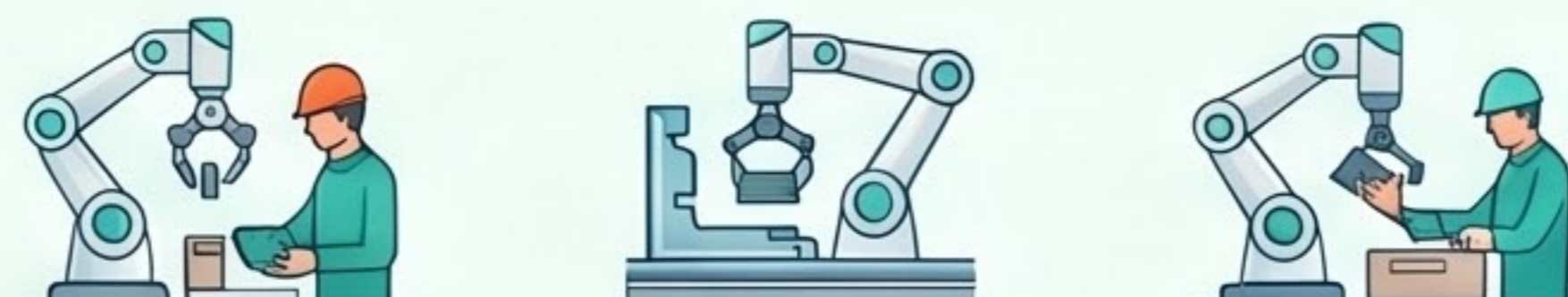


SUPPORTING\_FACT: 柔軟な拡張性とメンテナンス  
需要に合わせた増減が可能で、常に最新技術を利用  
メンテナンスもサービスに含まれることが多く、専門エンジニアが不在でも最新のハード・ソフトを運用できるメリットがあります。

## 【解決策1】 「協働ロボット (コボット)」の普及



協働ロボット (コボット) : 安全柵なしで人間と同じ空間で作業  
衝突検知機能を備え、大規模な工事不要で既存ラインに導入可能。  
専門知識がなくてもタブレット等で直感的に操作できます。



EXAMPLE: ピックアンドブレース、検査、設屋組立  
単純な反復作業をロボットへ、人間は高付加価値業務へ  
2030年には本体価格が2020年の30%弱まで下がる予測されており、導入コストの低下が加速しています。

## 【支援・未来】 2035年に向けた社会実装



PROCESS\_STEP:  
国策による強力な導入バックアップ  
「カタログ注文型」などの補助金創設により採算リスクを軽減。経済産業省はロボットが働きやすい「ロボットフレンドリー」な環境整備を進めています。



KEY\_FINDING: AIとの融合と「知能を持つパートナー」化  
2035年、ロボットが当たり前の「部下」になる  
深層学習により不定形物の扱ひも可能に。製造業だけでなく物産・医療・介護へも広がり、人間はより創造的な業務に集中する時代が到来します。

## 【市場予測】 爆発的に成長するロボット市場

